

2019年5月8日
シスメックス株式会社

シスメックスグループ中期経営計画を策定 ～持続的な成長に向け、グループの成長力強化、経営基盤強化を推進～

シスメックス株式会社（本社：神戸市、代表取締役会長兼社長 CEO：家次 恒 以下「シスメックス」）は、グループの力強い成長持続の実現とそれを支える経営基盤強化を推進するため、2022年3月期を最終年度とするグループ中期経営計画を策定しました。

本グループ中期経営計画では、長期ビジョンに基づくポジショニング目標達成に向け、今後3年間で取り組むべき重要な事項を設定し、最終年度の2022年3月期に売上高3,800億円、営業利益780億円の達成を目指します。

世界のヘルスケア市場は、医療費増大を背景とした先進国における医療の効率化、経済発展を背景とした新興国における医療インフラの整備と医療の質向上へのニーズから、今後も継続した成長が期待されています。また、AIなどの最先端技術のヘルスケア領域への応用や、分子診断技術^{*1}の進歩によるゲノム医療を含む個別化医療の進展など、さらなる成長機会も見込まれています。

シスメックスは、特徴のある先進的なヘルスケアテストング企業を目指して、グローバルに販売・サービスネットワークを構築するとともに、検体検査領域を中心とした製品ラインアップの充実に加え、IoTを活用した先進的なサービス&サポートをいち早く提供するなど、独自のソリューションを創出し続けることで継続的な成長を実現してきました。

本グループ中期経営計画では、2025年に向けた長期ビジョン（2018年制定）に基づくポジショニング目標達成に向けて、ヘマトロジー・尿検査・血液凝固検査・免疫検査分野といったIVD^{*2}事業における地域の特性に応じた製品ラインアップの拡充と販売・サービス体制の強化、ライフサイエンス事業における個別化医療に資する新たな診断価値創出に加え、高品質な製品のより迅速な市場導入を実現するバイオ診断薬拠点の稼働や、品質保証体制、薬事・臨床開発機能などの事業を支える体制強化により持続的な成長を実現します。

また、グループ目標の達成に不可欠な多様な人材の獲得と育成とともに、企業体質の強化と新たな価値創造に向けたビジネスプロセスの改革を推進します。

持続可能な社会の実現に貢献していくため、製品・サービスの提供を通じて医療課題の解決に取り組むとともに、環境への配慮、コーポレート・ガバナンスの強化、ダイバーシティの推進を通じて、多様なステークホルダーの皆様からの信頼を獲得し、安心をお届けすることを目指します。

株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うという基本方針のもと、連結での配当性向30%を目処に配当を行っていきます。

シスメックスは、グループ企業理念「Sysmex Way」のミッションとして掲げる「ヘルスケアの進化をデザインする。」のもと、長期ビジョンとポジショニングの達成に向けて、本グループ中期経営計画を着実に実行し、これからもヘルスケアの進化・発展へ貢献し続けます。

1. 長期経営目標（2018年5月9日発表）

(1) 2025年に向けた長期ビジョン

Unique & Advanced Healthcare Testing Company

『特徴のある先進的なヘルスケアテスト企業』

(2) ポジショニング

① 新たな診断価値を創出する IVD グローバル Top5

グローバルに成長し続ける検体検査市場のシェア拡大に加え、新たな診断価値の創出を通じて、コア事業（ヘマトロジー分野、尿検査分野、血液凝固検査分野、免疫検査分野）の持続的な成長を実現することで IVD グローバル Top5 を目指します。

② 治療を最適化する個別化診断のリーディングカンパニー

遺伝子、細胞およびタンパクの自社測定プラットフォームと、オープンイノベーションなどにより獲得した新たな技術、知見を融合することで、治療方法の選択に際して重要な鍵となる新たな検査・診断価値を創出し、個別化医療の実現をグローバルにリードします。

③ プライマリケアの進展に貢献するソリューションプロバイダー

これまで検体検査領域で培った診断技術と IT を活用することで、より患者さんに身近な場所で行われる初期診療において医師、看護師、検査技師など、医療従事者に必要とされるソリューションを提供し、医療アクセスの向上を目指します。

④ 価値と安心を提供する魅力あふれる会社

独創的な技術やビジネスモデル、活力ある人材、健全かつ先進的な企業経営により、社会に価値を提供し続ける企業として、多様なステークホルダーからの支持獲得を目指します。

⑤ スピード豊かな経営を実践する One Sysmex

多様な人材が活躍できる魅力ある職場の実現により、グループ全体として最高のチームワークを発揮し、高効率かつスピード豊かな経営を実践します。

2. グループ中期経営計画

(1) 中期目標数値（連結）

	2020年3月期目標	2022年3月期目標	伸長率（3年平均）
売上高	3,200億円	3,800億円	9.0%
営業利益	640億円	780億円	10.4%
営業利益率	20.0%	20.5%	-
ROE	16.0%	18.0%	-
営業キャッシュフロー	550億円	750億円	-
フリーキャッシュフロー	320億円	400億円	-

(2) 事業別売上目標

	2020年3月期目標	2022年3月期目標	伸長率（3年平均）
ヘマトロジー分野	1,926億円	2,160億円	5.9%
血液凝固検査分野	519億円	615億円	8.7%
尿検査分野	224億円	255億円	6.6%
免疫検査分野	167億円	255億円	22.4%
生化学検査分野	32億円	35億円	3.1%
FCM事業分野	30億円	80億円	73.3%
その他	132億円	140億円	-
IVD事業	3,030億円	3,540億円	7.7%
ライフサイエンス事業	170億円	260億円	35.9%

(3) 地域別売上目標

	2020年3月期目標	2022年3月期目標	伸長率（3年平均）
日本	482億円	530億円	6.3%
米州	767億円	896億円	8.3%
EMEA	804億円	935億円	7.3%
中国	871億円	1,087億円	11.6%
アジア・パシフィック	276億円	352億円	12.0%

※ 中期経営計画期間における想定為替レート

アメリカドル (USD)	ユーロ (EUR)	中国元 (CNY)
110 円	125 円	16.5 円

3. ポジショニング目標達成に向けた取り組み

(1) IVD 事業の成長力再強化

本グループ中期経営計画期間内に、さらなる商品開発力の強化を推進します。

各分野においては、ヘマトロジー分野は、マーケットニーズに合わせた製品の市場導入、販売体制の強化によるグローバルにおける高成長の実現を目指します。

尿検査分野は、尿定性検査製品のグローバル展開を加速し、尿沈査検査とあわせた尿検査の効率的なワークフロー実現により、事業拡大を目指します。

血液凝固検査分野は、全自動血液凝固測定装置「CN-6000/CN-3000」の導入加速、シーメンス社とのアライアンス、自社試薬のポートフォリオ拡充によりシェア拡大を目指します。

免疫検査分野は、主に肝疾患領域におけるユニーク項目の開発および試薬項目の認可数増加により市場における存在感を高めるとともに、中国、アジアにおける機器設置台数の増加、肝臓の線維化検査用試薬である HISCL™ M2BPGi 試薬などの既存ユニーク項目を含む試薬の市場導入を加速することで事業拡大を目指します。また、2019年4月に稼動した、バイオ診断薬の原材料、診断薬開発、生産、物流を一貫して行うバイオ診断薬拠点「テクノパーク イーストサイト」において、試薬製品の競争力向上、安定供給の強化を図ります。

FCM 事業分野は、クリニカル FCM の早期事業化に向け、機器、試薬の開発・市場導入を加速するとともに、医療資源が限定される国や地域に対して、WHO の事前承認を取得した「CyFlow™ Counter System」の導入を推進します。

(2) ライフサイエンス事業化スピードの加速

OSNA™法を用いたがんリンパ節転移迅速検査のがん種拡大とグローバル展開に加え、FISH 検査試薬を有する Oxford Gene Technology とのシナジーにより事業の収益拡大を推進します。また、2018年12月に日本で初めて製造販売承認を取得した「OncoGuide™ NCC オンコパネル システム」の保険適用に向けた取り組みや、理研ジェネシスにおける受託アッセイサービスによるがんゲノム医療の体制強化に加え、Sysmex Inostics の「OncoBEAM™ RAS CRC テスト」の IVD 認可取得や、高感度 HISCL のアプリケーション拡大により、個別化医療に資する新たな診断価値創出を目指します。

(3) 品質/品質保証機能の強化

お客様に信頼され続ける高い品質と安定供給体制の強化に向けて、品質保証体制の強化、商品開発段階における設計品質の向上、量産品質のさらなる向上を図ります。

(4) 事業を支える薬事/臨床開発機能の強化

関連法規制の厳格化が進む環境下でもタイムリーに新製品を市場へ導入し、早期の事業機会獲得を実現するため、グローバルでの製品性能評価体制の強化などに取り組みます。

(5) デジタル化によるビジネスプロセス改革

企業体質の強化および新たな価値創造に向けたビジネスプロセスの改革をグローバルに推進するため、次世代基幹システムやデジタル基盤の刷新に取り組みます。

(6) 人材マネジメントの変革

持続的な成長を支える次世代リーダーと高度専門人材の獲得および育成を強化するため、グローバルポリシーの制定など人材マネジメントの変革を推進します。

【注釈】

※1 分子診断技術：

組織・体液に含まれるタンパク、DNA、RNA などの分子を調べることで疾患を特定する技術。

※2 IVD (*in vitro* diagnostics)：

一般的には、血液や尿などの検体を用いて身体状態を診断する体外診断を示す。

ここでは、体外診断を行うために実施される検体検査の領域を示す。

(注記)

本資料のうち、業績予想などに記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算出しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績などが予想数値と大きく異なる可能性があります。

以上